

平成 24 年度研究成果情報

課題名:アゲマキ母貝集団の効果的創出方法の検討

[背景・ねらい]

アゲマキは、かつては佐賀県有明海の泥干潟で多く見られる二枚貝として、漁業生産のうえでも極めて重要な位置を占めていたが、平成 2～3 年にかけて激減し、平成 4 年以降、20 年近くほとんど漁獲がない状態が続いている。

このため、種苗生産・放流技術を開発し、アゲマキ母貝集団の効果的な創出方法を確立することにより、資源の再生産力回復を図る。

[成果]

- (1) 平成 21 年度以降の4ヶ年で、放流用の稚貝(殻長約 8mm)約 345.8 万個を生産し、これらを佐賀県沿岸の 9 地区に放流した。このうちの太良町地先については比較的良く生残しており、平成 23 年度の調査において漁獲サイズ(70mm)を超え、順調に成長していることを確認した(図1)ことから、平成 24 年 6、7 月に県内外の3市場に試験出荷したところ、平均 2,360～3,330 円/kgで取引された。

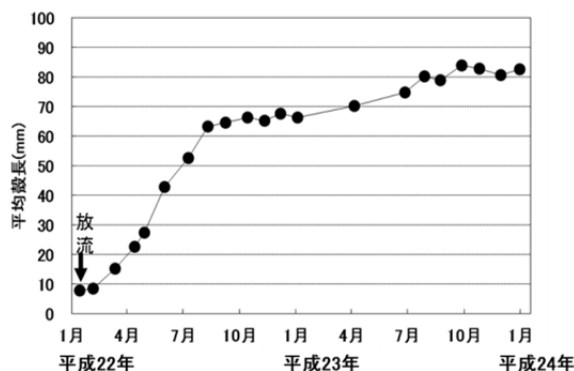


図 1 放流後の成長(太良町地先放流群)



図 2 試験出荷されたアゲマキ

- (2) 稚貝の放流に適した条件として、地盤高 2.5～4.0m程度、底質の含水率が 60%以下であること等が明らかになった。

[課題・問題点]

- ・ 放流直後の散逸が大きいと推定された。

[今後の対応]

- ・ 散逸を軽減するためのさらなる絞り込みを行う。

[その他]

研究期間:平成 21～24 年度

研究担当者:資源研究担当 佃 政則